

令和5年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

「一人ひとりの花を咲かせよう！ そしてともに輝こう！」をキャッチフレーズに、
児童生徒一人ひとりが日々輝き、卒業後にいきいきと社会生活を送ることができるよう、
以下の学校づくりを行う。

- 1 知的障がい教育の理論と実践の積み重ねに裏付けられた専門性の高い教育を行う学校
- 2 保護者や地域の人たちとともに児童生徒の一つひとつの成長を喜び合う学校
- 3 教職員がいきいきと働く学校
- 4 地域の小中学校等が自立して支援教育を推進することをサポートする学校

2 中期的目標

1 知的障がい教育の専門性向上

＜学校教育自己診断の保護者評価「指導方針に共感」R7まで90%以上を維持（R2:92%、R3:90%、R4:89%）＞

キャッチフレーズ：「寝屋川支援プライド ～誇りをもって～」

(1) 児童生徒一人ひとりに応じた教育を実践する（自閉スペクトラム症の特性に応じた指導支援を含む）

- ア 正確なアセスメントを行う
 - イ 課題にアプローチする教材・教具の工夫を行う
 - ウ 児童生徒の達成感・自己肯定感を育成する
 - エ 効果的な指導方法を検討する
 - オ シラバスを活用する
 - カ 小中学部からのキャリア教育を推進する
- (2) 時代にマッチした教育理論を構築する
- ア カリキュラム・マネジメントを充実させる
 - イ 教科横断的な教育課程を編成する
 - ウ 主体的・対話的で深い学びを充実させる
 - エ PBS（ポジティブ行動支援）に基づく指導支援を行う
 - オ 特別の教科 道徳を推進する
 - カ ICTを活用した取組みを推進する
 - キ 生涯にわたって学ぶ姿勢を支援する
 - ク 防災に努める

(3) 次世代教員を育成する

- ア 人権感覚を高める
- イ メンターを育成する
- ウ 強い組織を再構築する

2 保護者・地域・関係機関との連携

＜学校教育自己診断の保護者評価肯定的評価(平均) R7まで85%以上を維持（R2:86%、R3:84%、R4:82%）＞

キャッチフレーズ：「分かり合い ともに子どもを 育てよう！」

(1) 保護者との連携を深める

- ア ICTを活用した連携を進める
- イ 保護者が悩みを相談できる機会を作る

(2) 地域・関係機関との交流・連携を推進する

- ア あいさつ運動を展開する
- イ きれいな地域づくりに貢献する
- ウ 寝屋川公園に作品展示を行う
- エ 民間委託された給食室と連携を図る

(3) わかりやすい最新の情報発信を行う

3 働き方改革

＜学校教育自己診断の教職員肯定的評価「業務の効率化・平準化」R7まで65%以上を維持（R3新設:58%、R4:58%）＞

キャッチフレーズ：「魅力ある授業づくりは教職員の健康から！」

(1) 同僚性の高い職場づくりを行う

- ア ワーク・ライフ・バランスを向上させる
- イ 定時退庁できる雰囲気づくりを行う

(2) 業務の効率化・平準化を行う

- ア デジタル化を推進する
- イ PC内の構造化と仕事の見える化を行う
- ウ 物品・環境の管理・整理方法を見直す
- エ 個人情報処理業務を削減する

(3) 業務推進体制を再構築する

- ア 首席を学校経営の要として配置する
- イ 指導教諭の円滑な全校指導体制を構築する
- ウ 新しい校務分掌体制を整理する
- エ 学校経営計画を共有する
- オ 行事の見直しを行う

4 地域支援 ＜地域のスキルアップのため、各校への訪問相談について、各市の教育委員会と協同で実施 100%＞

キャッチフレーズ：「地域の自立をサポート！」

(1) 地域との連携強化を図る

- ア 地域のスキルアップを図る
- イ 研修講師の派遣を行う

(2) 学校全体で地域支援を行う

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和 年 月実施分]	学校運営協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標 ＜推進部署＞	具体的な取組計画・内容 (太文字下線部分はキャッチフレーズ)	評価指標[R5年度値]	進捗状況
1 知的障がい教育の専門性向上	<p>(1) 児童生徒一人ひとりに応じた教育を実践する(自閉症・アスペルgerの特性に応じた指導支援を含む)</p> <p>ア 正確なアセスメントを行う ＜小学部・支援研究部＞</p> <p>イ 課題にアプローチする教材・教具の工夫を行う ＜支援研究部・管理職＞</p> <p>ウ 児童生徒の達成感・自己肯定感を育成する ＜支援研究部＞</p> <p>エ 効果的な指導方法を検討する ＜教務部・小学部＞</p> <p>オ シラバスを活用する ＜教務部＞</p> <p>カ 小中学部からのキャリア教育を推進する ＜生活指導部＞</p>	<p>(1)</p> <p>ア 児童一人ひとりを分かり合おう! ・早期に実態把握・課題検討するため「太田ステージ」によるアセスメントを年度当初に行う。 明日を拓くキャリア教育プログラム! ・全校で「キャリア教育プログラム」によるアセスメントを行い、グループ編成等に積極的に活用すると共に実践を共有する。</p> <p>イ コミュニケーションを広げよう! ・PECS(絵カード交換式コミュニケーションシステム)の導入を拡大し活用する。</p> <p>ウ 子どもの言葉に耳を傾けよう! ・児童生徒の発達段階に応じたコミュニケーションツールを用い、子どもの言葉や考えを聞き取る双方向の指導を進める。</p> <p>エ その内容、どうやって教えます? ・シラバスに沿った授業計画、「教材 BANK」「できるもん活用(授業アイデア集)」を活用し、「何を教えるか」より「どうやって教えるか」に力を発揮できる環境整備。(教務)</p> <p>オ 指導しよ使いましょ! ・次年度の教科書採択で、☆本を積極的に採択する。</p> <p>カ 開発集団・財産共有! ・教材教具、ICT 活用実践交流会、教材作成講習等、教員同士の学び場を設定する。</p> <p>カ 「寝屋川シラバス」で12年間つなげます! ・現在のシラバスの見直しを行い、12年間の繋がりを意識した授業づくりを行う。</p> <p>カ 支え愛・助け愛・学び愛! ・各学部の児童会・生徒会が、同じ目標をもって活動する。</p> <p>カ 「ちがいを認めて共に生きる! ・多様性に着目した人権学習等を通して自分や他者のよさに気づき、よりよい人間関係を築く。</p> <p>カ たのしく みんなで つながろう! ・嬉しい、楽しいと感じられる児童同士が教えあう、他学年との交流の機会を増やす。</p>	<p>(1)</p> <p>ア ・小学部において太田ステージのアセスメントを継続実施。小学部教員に向けての研修1回以上実施。1年生のグループ分け指標及び、学習指導要領の段階判定に関するアセスメントに活用する。 ・全校におけるアセスメントを継続実施し、実践を共有する。</p> <p>イ ・全校で PECS の研修を実施すると共に、PECS を活用している施設見学を実施し、全校的な活用を進める。ワークショップ受講人数今年度比 1.3 倍 ・校長の授業観察時に、子どもの発言や意思表示を確認する場面設定があるか確認する。(全ての授業で実施)</p> <p>ウ ・授業研究及び協議への参加、全員1回以上。 ・授業参観又は授業動画視聴を全員1回以上。 ・部研修、公開授業、各種研修(指導案作成、授業づくり等)の実施。</p> <p>エ ・「指導方法」に関する研修会の実施。</p> <p>オ ・☆本の採択数の増加 150%〔7冊〕</p> <p>カ ・研修・交流会・年度末にアンケート実施 肯定的評価 80%</p> <p>オ 運用シラバス(年間計画)の作成。</p> <p>カ ・全校行事のスローガンを作成する。</p> <p>カ ・小学部(人権学習各学期1回) ・中学部(人権学習週間・学習年1回 交流学习 各学年年2回以上)</p> <p>カ ・小学部全学年が全ての他学年と交流する機会を持つ。</p>	
	<p>(2) 時代にマッチした教育理論を構築する</p> <p>ア カリキュラム・マネジメントを充実させる ＜教務部・担当首席＞</p> <p>イ 教科横断的な教育課程を編成する ＜教務部＞</p> <p>ウ 主体的・対話的で深い学びを充実させる ＜支援研究部＞</p> <p>エ PBS(ポジティブ行動支援)に基づく指導支援を行う ＜支援研究部・小学部＞</p> <p>オ 特別の教科 道徳を推進する ＜指導教諭＞</p> <p>カ ICTを活用した取組を推進する ＜GIGAPT＞</p>	<p>(2)</p> <p>ア 「カリ・マネ」ってなにかね? ～ はじめの大1歩! ～ ・カリキュラム・マネジメントの考え方を周知し、教職員それぞれが「カリ・マネ」を意識し、全校的な運営を行う。</p> <p>イ 「行事」「授業」つなげます! ・行事・授業・事前学習等の内容を見直し、教科横断的な教育課程・授業を設定する。</p> <p>ウ めざせ!「主体的・対話的で深い学び」 ・主体的・対話的で深い学びの視点がある授業研究を行う。(10年経験者)</p> <p>エ ポジティブな支援を考えよう! ・児童生徒へのPBS(ポジティブ行動支援)を実践する。</p> <p>エ ポジティブにティーチングでいい気分! ・PBSに基づいたアプローチでの児童支援、適切行動の獲得、不適切行動の低減をめざす。</p> <p>オ 道徳教育を豊かに! ・知的障がい特別支援学校の道徳科指導案や教材を収集して研究する。</p> <p>カ これが自分のタブレット! ・児童生徒の実態に応じた、1人1台端末活用を促進する。</p>	<p>(2)</p> <p>ア ・カリ・マネ通信の発行。(学期1回) ・研修の実施。(学期1回)</p> <p>イ ・教務部内に係を設け、教科横断的な教育課程を作成する。</p> <p>ウ ・主体的、対話的で深い学びの内容が記載された指導案作成と授業の実施。</p> <p>エ ・PBSに関する全校研修を1回以上実施する。</p> <p>エ ・PBSに基づいた実践事例をまとめる。 ・PBS 専門の外部コーチを依頼する。</p> <p>オ ・道徳科の授業実践に係る「教材」「指導案」等について共有する。</p> <p>カ ・端末の各種アプリケーション活用のための配備。(小学部全クラスに2台) (5年生以上の児童生徒に1人1台を紐づけて使用) ・児童生徒が端末を効果的に活用する授業づくりのための研修年1回。 ・端末活用をリードする学習グループの実践共有。</p>	

	<p>キ 生涯にわたって学ぶ姿勢を支援する<教育環境部・中学部></p> <p>ク 防災に努める<生活指導部・担当首席></p> <p>(3) 次世代教職員を育成する</p> <p>ア 人権感覚を高める<管理職></p> <p>イ メンターを育成する<指導教諭></p> <p>ウ 強い組織を再構築する<管理職></p>	<p>やってみよう！クラスルーム ・年齢や発達段階に応じてストリーム投稿に係る操作・手順について授業に位置付ける。</p> <p>キ そうだ！図書館へ行こう！ ・卒業後の余暇活動につながる読書教育を継続して推進する。 チャレンジクラブでほっこりタイム！ ・自分の得手不得手を把握させ、将来の余暇活動の過ごし方につなげる。</p> <p>ク 防犯はもう常識！防災はもう日常！ ・BCP（事業継続計画）を活用した防災研修・防災訓練を行うと共に、防犯研修も行う。</p> <p>(3)</p> <p>ア 磨こう人権感覚！ほかほかと温かい心！ ・体罰、不適切な指導等の防止に努める。</p> <p>イ チーム力を発揮した授業づくり！ ・初任者、指導教員、指導教諭3者によるチームでの授業研究を実施する。</p> <p>ウ 世代・経験に応じた活躍の場！ ・経験年数の少ない教員は新しい学びにチャレンジ、ミドル教員は学校をけん引、ベテラン教員は専門性の継承に、それぞれが努める。</p>	<p>・ストリーム投稿に係る授業を全学年実施する。 ・長期休暇時の家庭・学校間のストリーム投稿の実施。</p> <p>キ 図書室内の環境整備の継続。 ・書籍の入れ替え。（新規購入・寄贈等を合わせて全書籍の10%） ・総合的な活動の時間に複数のクラブを設定して実施。（学期2回）</p> <p>ク ・実際の災害時を想定した避難訓練実施。年2回（地震1回、火災2回、Jアラート1回含む） ・避難訓練前に事前指導を行うと共に、希望する学級で備蓄食の食事体験を実施。</p> <p>(3)</p> <p>ア ・体罰・不適切な指導を起こさせないための人権研修を年1回実施。</p> <p>イ ・年度初めに3者で、役割・目標・スケジュールを確認し、年間計画を作成。 ・指導案作成、研究授業、事前・事後授業等を3者で協議しながら進める。 ・教育実習生、初任者の指導のための、「指導案作成」「授業づくり」の全校研修実施。年1回 ・教育実習生の指導教員の相談役として指導教諭を位置付ける。</p> <p>ウ ・学校教育自己診断教職員評価 「次世代教職員の育成」75%〔70%〕 「学校経営への参画」55%〔49%〕 「教職員での話し合い」90%〔86%〕</p>	
<p>2 保護者・地域・関係機関との連携</p>	<p>(1) 保護者との連携を深める ア ICTを活用した連携を進める<GIGAPT・担当首席></p> <p>イ 保護者が悩みを専門医に相談できる機会を作る<保健室></p> <p>(2) 地域・関係機関との交流・連携を推進する ア あいさつ運動を展開する<生活指導部></p> <p>イ きれいな地域づくりに貢献する<小・中学部></p> <p>ウ 寝屋川公園に作品展示を行う。<管理職></p> <p>エ 民間委託された給食室との連携を図る<健康教育部></p> <p>(3) わかりやすい最新の情報発信を行う<情報教育部></p>	<p>(1)</p> <p>ア ICTの活用で、もっとつながる家庭と学校！ ・ストリーム投稿等、ICT活用の理解推進とルールの周知を行う。 写真販売もWebの時代！ ・写真販売をWebで行い、保護者の生活時間の確保、円滑な連携を図る。</p> <p>イ ようこそ相談室へ！ ・小児発達・精神科の専門医に保護者をはじめ、だれでも気軽に相談できる場を設定する。</p> <p>(2)</p> <p>ア 愛さつ運動で通じる心、つながる気持ち！ ・挨拶推進月間を通して挨拶の習慣づけを行い、朝の散歩等で地域の人への積極的な挨拶により、互いの理解を深める。</p> <p>イ みんなで楽しく、地域がキラキラ！ ・きれいな地域づくりに貢献する活動を行う。</p> <p>ウ 作品展示を通じた地域との繋がりが強化！ ・寝屋川公園内「森の展示室」に出展し、地域の方々と作品を通じた交流を行う。</p> <p>エ 開かれた給食室！ ・民間委託となる調理員に児童生徒がインタビューする等、給食について知る機会を設定する。</p> <p>(3) 学校のこと、伝えます！ ・ホームページを活用した、最新の情報発信に努める。</p>	<p>(1)</p> <p>ア ・新1年生のパスワード及び学習支援クラウドサービスの準備完了。 ・クラウドサービスの安全性と活用の理解のための通信作成及び説明会実施。 ・写真販売システムの導入。</p> <p>イ ・学期に2回以上の実施。</p> <p>(2)</p> <p>ア ・挨拶推進月間の実施。各学期1回 ・年間を通しての挨拶運動実施。</p> <p>イ ・寝屋川公園の清掃活動を行い、きれいな地域づくりに貢献し、地域との交流を深める。</p> <p>ウ 年間2回以上の出展。</p> <p>エ ・児童生徒によるインタビュー。年1回 ・給食についての動画の作成。</p> <p>(3) ・定期更新とメンテナンス50回以上。</p>	
<p>3 働き方改革</p>	<p>(1) 同僚性の高い職場づくりを行う ア ワーク・ライフ・バランスを向上させる<管理職></p> <p>イ 定時退庁できる雰囲気づくりを行う<管理職></p> <p>(2) 業務の効率化・平準化を行う ア デジタル化を推進する<情報教育部・教務部></p>	<p>(1)</p> <p>ア 1に健康 2に生活 3がなくて 5に仕事！ ・働き方改革を推進し、ワーク・ライフ・バランスを向上させる。</p> <p>イ あっ！定時や！かへえろっと！ ・会議日程や方法を検討すると共に、管理職も早く退勤し、退勤しやすい職場づくりを行う。</p> <p>ア I(いつも) C(ちょっと) T(トライ) できるICT活用！ ・指導者のICT活用能力を高めると共に、適切な機器管理を進め、独自システムの持続的・効率的な運用と体制づくりを行う。</p>	<p>(1)</p> <p>ア ・ストレスチェックの総合健康リスクを今年度より上回る。〔105〕</p> <p>イ ・時間外勤務実績 R3年度比10%削減。〔R4 4月～12月実績 22,220H〕</p> <p>ア ・活用スキルの段階別研修実施1回以上。 ・備品管理台帳の作成と管理。 ・システム運用のための人材育成研修1回以上。</p>	

	<p>イ PC 内の構造化と仕事の見える化を行う<担当首席></p> <p>ウ 物品・環境の管理・整理方法を見直す<教育環境部></p> <p>エ 個人情報処理業務を削減する<管理職></p> <p>(3) 業務推進体制を再構築する</p> <p>ア 首席を学校経営の要として配置する<管理職></p> <p>イ 指導教諭の円滑な全校指導体制を構築する<管理職></p> <p>ウ 新しい校務分掌体制を整理する<管理職・教務部></p> <p>エ 学校経営計画を共有する<管理職></p> <p>オ 行事の見直しを行う<健康教育部></p>	<p>乗るしかない！このビッグウェーブ！ ・ICT 活用を更に促進し、「教材 BANK」「できるもん活用（授業アイデア集）」の活用を促進させる。</p> <p>教材もアイデアもリユースがスタンダード！ ・作成した「教材 BANK」「授業できるもん」を活用し、教材作成の時間を短縮する。</p> <p>仕事サクサク・効率アップ！ ・構造化した PC の活用を進めるため、セキュリティモードとインターネットモードの活用方法を明確にする。</p> <p>ひと・もの 大切に！ ・備品、教材等の管理と整理を行う。 むり・ムラ・無駄ない安心安全な学校！ ・校内安全点検を実施し、教育環境を整える。</p> <p>溶解にして、他の仕事しようかい！ ・年度末個人情報処理を、シュレッダーから溶解に変更し、業務軽減を図る。</p> <p>(3)</p> <p>強化します！首席間連携・教頭との連携 ・総括首席を指名すると共に、首席を教頭補佐として連携を更に強化する。</p> <p>全校見守る指導教諭！ ・指導教諭が学部を超えて、教員の授業力向上を図る。</p> <p>変わるらしいで～！ (知らんけど、とは言うてられへんで) ・分掌改編に合わせて役割を具体化し、次年度へ引き継ぐシステムの整理。</p> <p>みんなで見よう！学校経営計画 ・校内に拡大した学校経営計画を掲示し、目標の実現に向け教職員で共有する。</p> <p>競技中心の楽しく充実した運動会！ ・マスゲームのない、充実した運動会を企画する。</p>	<p>・「教材 BANK」「できるもん活用」の全教科作成。</p> <p>・年度末にフォーム作成ツールで確認。活用率 50%以上</p> <p>イ ・セキュリティモードとインターネットモードのデータ移行が完了する。</p> <p>ウ ・各部の職員室ロッカー、教材倉庫の整理整頓の実施。(各学期 1 回) ・毎月の安全点検の実施とフィードバック。</p> <p>エ ・溶解処理の計画・実施を行う。</p> <p>(3)</p> <p>ア ・総括首席を指名する。 ・首席を教頭補佐とする。</p> <p>イ ・指導教諭が全校の初任者・10 年経験者・指導教員の指導にあたる。</p> <p>ウ ・学校教育自己診断の教職員評価「業務の効率化・平準化」60%以上〔58%〕</p> <p>エ 校内に拡大した学校経営計画を掲示する。</p> <p>オ ・マスゲーム数・所要時間・係業務が R4 より減少する。 ・運動会実施後教員向けアンケートの「昨年度と比較した負担感」で肯定的評価 60%以上。</p>	
<p>4 地域支援</p>	<p>(1) 地域との連携強化を図る</p> <p>ア 地域のスキルアップを図る<支援部、LS 担当指導教諭></p> <p>イ 研修講師の派遣を行う<支援部、LS、担当指導教諭></p> <p>(2) 学校全体で地域支援を行う<支援部、LS、担当指導教諭></p>	<p>(1)</p> <p>Power of connect (連携強化) ・各市の教育委員会との連携を図り、訪問相談をより充実させると共に、地域のコーディネーターのスキルアップを図る。</p> <p>夢中になれる学びの場！ ・市教育委員会・学校園からの要請を受け、研修講師の派遣を行う。</p> <p>(2) Co development (コーディネーター育成) ・登録相談員制度に教職員全員が登録し、一緒に訪問に行くことで、次世代のコーディネーターの育成に努める。</p>	<p>(1)</p> <p>ア ・全ての訪問相談について、各市の教育委員会と協同で実施。</p> <p>イ ・すべての要請に対応する。 [支援回数 60 回 (訪問・来室・電話相談、研修講師)]</p> <p>(2) ・LS 以外の教員との訪問相談 3 回以上。</p>	